

はじめに、元旦に発生した能登半島地震において、被災地では私たちの想像を超えた苦しみの中にあることと案じております。沖縄県からも医師会が中心となり支援班を組織し現地で活動を開始しております。被害に遭われた地域の皆様、そして救護・復興支援にあたられる皆様の安全とご健康、そして被災地に1日も早く日常が戻ることお祈り申し上げます。

本大会のテーマは、『未来へ紡ぐ物語～全ての人々が共存できる社会へ～』としました。沖縄県における在宅医療・福祉・介護は、高齢化の進展を背景とした利用者の急激な増加が見込まれ、これからますます重要性を増していきます。人生の最終段階を迎え、介護が必要になったとしても「私はここで暮らしたい」という希望を受け止め、支えることのできる社会は実現可能でしょうか？

在宅医療は単に病気を診断・治療するだけでなく、病気を抱えながらも地域で暮らしたいと願う人の人生を共に歩むという役割があります。私が在宅医療で大切にしている言葉は「物語」です。一人一人に大切な物語があり、そこに伴走する仕事は在宅医療であり、地域で働く人々なのです。

沖縄でも、地震や台風などの災害がいつ起きてもおかしくない時代です。

そして、今回のような災害時にこそ、在宅医療の重要性はさらに高くなります。

これからの時代、災害や貧困など目に見える苦しみに対してボランティアや寄付金などで助け合うことができたとしても、人の心の中にある目に見えない苦しみが置き去りにされてしまう可能性を心配しています。

目に見えない苦しみとは「どうして私がこんな病気になってしまったのか？」「誰かの迷惑になるなら、生きていても仕方ない」など、スピリチュアルな苦しみを指し、答えることのできない理不尽な苦しみであります。

私たちは今回のフォーラムを通して、単に在宅医療という分野を推進するだけでなく、沖縄に住む人々の人との繋がりを大切にする心の温かさを再認識し、それを言葉にできたらと望んでいます。お金や制度のように目には見えないけれど、みなさん一人一人が持つマインドで豊かな未来を創ることは可能です。

本フォーラムの特徴をまとめると以下の通りとなります。

- ✓ 医療職だけでなく、一般職、学生すべての人が参加可能
- ✓ 参加費無料で、途中参加、退出可能
- ✓ 参加者との対話を重視し、自由に発言が可能
- ✓ 台湾在宅医療の第一人者である余尚儒先生による特別講演を企画
- ✓ 介護職、リハビリ職を中心とするセッションを企画
- ✓ 学生が中心となり将来の夢を語る企画
- ✓ 災害時の在宅医療に関する特別企画（計画中）

私たち在宅医療・福祉・介護に携わる人びとは、一人一人の人生の物語を大切にし、どのような病気を持っていても、どこで暮らしていても穏やかでいられる沖縄県を創りたいと願い、今回のフォーラムが役立つことを願っています。皆さまからの積極的なご参加、ご発言をお待ち申し上げております。

本フォーラムは、参加費無料であり、現地およびオンラインのハイブリッド形式で開催いたします！

会場およびオンラインで皆さまとお会いできることを楽しみにしています！

沖縄在宅医療推進フォーラム 2023 大会長 長野 宏昭

NPO 法人いきがい LABO 共同代表・理事 / いきがい在宅クリニック 院長